

令和5年度 学校評価総括表 伊丹市立 伊丹幼稚園ありおか分園

教育目標		心豊かに共に育ち合う子どもを育てる						
重点目標		子どもが心豊かに共に育ち合う保育を推進する。 地域に開かれた幼稚園づくりを推進する。						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	きめ細やかで特色のある幼児教育の提供	・異年齢の関わりを大切に保育を工夫し、展開する。 ・幼児理解と教師の保育力・連携力向上をめざした園内研究会を実施する。	・定期的に保育について全職員で話し合い、子どもの興味・関心や遊びの展開を共通理解し、教師が連携し合って保育に取り組むよう努める。 ・教師の資質向上のため、講師を招聘し園内研究会を行い、保育を創造していく。	・週1回程度、これからの保育について全職員で話し合っ共通理解し、ねらいをもって保育に取り組む。 ・保護者アンケートで「幼稚園は、子ども達の興味関心、発達に応じた保育を行うことに努めている」の項目において、肯定的な評価80%以上になる。 ・園内研究会を実施し、保育の質向上と教師の資質向上を図る。	B	・異年齢児が関わり合う戸外遊びの展開などを定期的に全職員で話し合うことで、全職員が連携し、全園児と関わって保育に取り組む体制ができてきた。しかし、週1回程度話し合いがコンスタントにはできないことがあった。 ・保護者アンケートの項目では、肯定的な評価が95%を越え、目標を達成することができた。 ・10月に講師招聘の園内研修を実施することができ、各教師の資質向上につながった。	・異年齢児が関わりをもつためには、保育の展開や子どもの様子についての話し合いは大切であり必要だと感じているので、週に1回は保育の話ができるように、時間を確保する。 ・幼稚園に求められている保育、自分たちがめざす保育を展開していけるように、引き続き講師招聘の園内研究会を実施したり、共同研究園の公開保育等に積極的に参加し、各教師が資質向上に努める。	・外遊びが活発に行われ、交流できている。 ・少ない職員数だったが、子どもの成長がしっかり見られた。 ・異年齢のかかわりが深くなった。 ・今後、園児の人数が少なくなる分、またきめ細やかな幼児教育を望む。
	心豊かに共に育ち合う子どもの育成	・子ども一人一人が、自分で考え行動するための保育や環境の構成を工夫する。	・南ブロックの研究サブテーマに係る「自分で考え決定して行動する」子どもの姿やその育ちを全職員がそれぞれ捉えていく。 ・友達や教師と遊びを楽しんだり、試行錯誤したり、発見・探求したりする姿が見られるような保育や環境の構成を行う。	・月1回程度、自分で考え決定して行動する子どもの姿をエピソード記録として出し、全職員でカンファレンスを行う。 ・保護者アンケートで「子どもは、友達や教師と試行錯誤したり、発見・探求したりして遊びを楽しんでいると感じる」の項目において、肯定的な評価80%以上になる。	B	・保育に携わる教職員がエピソード記録を書き、全職員でカンファレンスを行い、子ども理解を深めたり、保育の見直しを行ったりすることができた。しかし、月1回という目標は難しく、2~3ヶ月に1回程度実施する形となった。 ・短期案を自分で考え行動する子どもの写真を入れるように書き方を変えたことで、子どもの姿が捉えやすくなったと共に、教職員間で共通理解しやすくなった。 ・保護者アンケートの項目では、肯定的な評価が95%を越え、目標を達成することができた。	・エピソード研修という形では、自分で考え決定する子どもの姿について話し合いを重ねることができなかったが、保育後に話すことはできていた。改めて文章に起こすことで気付くこともあったり、他の職員の話や聞くことで学びが広がったりすることがあるので、エピソード研修をする時間を確保していく。	・研修をしっかり行っている点が評価できる。 ・保育の中で子ども同士、相談させたり考えさせたりしながら、進めている様子がわかる。
	特別支援教育の推進・充実	・一人一人の個性を大事にし自分らしく表現できるよう、個々の発達段階や課題に応じた適切な指導・援助を行う。 ・子ども同士が互いに認め合い、共に育ち合う保育を実践する。	・短期案の話し合いの際に、子どもの様子や課題について話し合い、職員間で情報を共有する。 ・特別支援教育担当者と担任が子どもの実態について捉えた個別指導計画を立て、全職員での共通理解を図る。また、保護者に開示をして、子どもの課題に対して園での取り組みや支援方法を伝え、園と家庭との連携を密にする。 ・特別支援対象児だけでなく、全園児に対し発達の課題に応じて関係機関や小学校と連携し、集団参加や社会参加において、子どもや保護者にとって効果的な援助や支援方法を考える。 ・子どもの実態や課題に応じて、クラス活動やにじいろ広場に自信をもって参加できるように個別の支援を行う。	・保育後に子どもの様子などを話題に取り上げ、全職員で子どもの姿や支援方法について共通理解をする。 ・個別指導計画を年2回(前期・後期)作成し、子どもや保護者の支援に活かす。 ・個別指導計画を保護者に開示し、子どもの発達状況や園での支援方法を伝え、園と家庭が共通理解する場を年2回もつ。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に参加を促す。 ・保護者アンケート「幼稚園は、一人ひとりをあたたかく幼児理解し、個々の発達や個性に応じた保育を行い、共に育ち合えるようにしている。」の項目において肯定的な評価が80%以上になる。	A	・個別の配慮が必要な子どもたちの姿や支援方法について、職員間で情報交換し、共通理解を深めた。 ・子どもの実態に合わせた個別指導計画を作成することで、家庭とも共通理解して支援に活かすことができた。 ・あすばるや療育施設と連携を図り、幼稚園と幼稚園外での子どもの様子を共有出来た。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に参加し、専門的な遊具を使った経験を深めることができた。 ・保護者アンケートでは、肯定的な回答が100%となり、目標を十分達成することができた。	・年間を通して全職員で子どもの様子を定期的に共有する時間を増やし、今後継続した支援ができるようになっていく。 ・保護者との連携を大切に、個別の指導計画の内容を共通理解しながら保育実践につなげていくようにする。 ・わかばこども園でのにじいろ広場に積極的に参加し、園児の保育に活かしていく。 ・研修会に参加し、専門性の向上に努める。 ・引き続き、各専門期間と連携を図り、保育に活かしていく。	・年々増加している支援を必要とする子ども達にどのように向き合うかを職員同士で共通理解し、これからの対応をお願いしたい。 ・一人一人の個性が認められている。自分らしさが出せる毎日を工夫して作っていったと思う。 ・色々な特性をもった子ども達なので、声かけへの配慮、対応を強く望む。
豊かな心・思いやりの心の育成	豊かな心・思いやりの心の育成	・身近な人とかかわりを通して、自尊心や他者を思いやる心を育む。 ・飼育栽培活動や、自然とかかわる関わる機会を大切に、命の大切さや尊厳に気づく保育を行う。	・一人一人の子どもが自分を好きになったり、自分を認めたり他者から認められたりする経験が得られるよう保育を進める。また、友達の良いところや、互いに思いやりをもって接することが出来るような保育を実践する。 ・一人一人の好きなことや自信をもてること出来るように関わり、子どもの意欲や取り組みの過程を認める声かけを行う。 ・異年齢でのかかわりの機会を日常的に増やす。 ・生き物の飼育や栽培活動を通して、命の大切さに気づき、思いやりの気持ちを育む。	・異年齢でのかかわりの機会が増える。 ・保護者アンケート「子どもは自分を大切に、友だちや周りの人を思いやる気持ちをもち、出来るようになってきている。」「子どもは、生き物や植物などの自然に興味関心をもったり、命の大切さを感じたりするようになってきている。」の各項目で80%以上の肯定的な回答となる。	A	・合同保育や保育室を自由に行き来できる環境であることなど、毎日自然に異年齢とかかわることで、他者を思いやる様子が増えた。今後も全職員が一人ひとりの子どもの気持ちを大切に、個々の成長に繋げる。 ・さつまいもや大根の収穫をすることで、季節の野菜に関心をもち、家庭でも味わうことができた。 ・保護者アンケートでは、肯定的な回答が100%となり、目標を十分達成することができた。	・今後も異年齢とかかわりがしなくても環境を継続し、工夫した保育をしていく。また、子ども一人ひとりが自分のことを好きになれるように、声を掛けたり接したりして伝えていく。 ・生き物の飼育や栽培活動をタイミング良く保育に取り入れることで、自然に触れ、生長を楽しみにしながら、日頃から身近に感じられるようにする。	・この点を大切にしてい保育をされていることがうかがえる。これからも継続してください。 ・100%は難しいが、大きい数字ではなく、引いた数字の子ども達のことを考えて保育に取り組んでほしい。
	基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣の確立をめざし、自分の体を大切に子どもを育てる。	・基本的生活習慣や健康に関する意識を高めるために、発達に応じた「保健の話」や「けんこうカレンダー」を実施する。 ・保護者への啓発として、月1回ほけんだよりを発行する。	・園と家庭が連携するために ①基本的生活習慣や健康について意識向上を目指す。②月1回の「保健の話」や「けんこうカレンダー」「ほけんだより」を配布する。 ・保護者アンケート「子どもは、ほけんの話やけんこうカレンダーなどに関心をもち、自分の身体を大切にしようとしている。」の項目で80パーセントの肯定的な回答となる。	B	・「ほけんだより」「けんこうカレンダー」を啓発したことで、家庭の様子もわかり、園と家庭が連携することができ、基本的生活習慣や健康について意識向上することができた。 ・月1回「保健の話」や「けんこうカレンダー」「ほけんだより」の配布を実施することができた。 ・保護者アンケートの項目では、肯定的な評価が90%を越え、目標を達成することができた。しかし、あてはまらないという回答が少数あった。	・引き続き「保健の話」や「けんこうカレンダー」「ほけんだより」を実施し、基本的生活習慣や健康について興味、関心をもつように内容の工夫をしたり、掲示をしていく。 ・保健の話の内容や様子を個別の声かけやHPを通して家庭へつなげ、啓発を進めていく。	・家庭との連携をこれからも大切にしてほしい。 ・保護者との連携が大切なところでもあります。20%のフォローも大切にする。 ・家庭での生活が大きく影響する。保護者の意識が大切。
開かれ信頼される学校園	安全・安心な園づくり	日常的に、様々な事象に対する意識を高める。	・安全点検及び日常のヒヤリハットを共有し、即、改善に努める。 ・様々な事象を想定した訓練、振り返り、改善を行い、個々として、集団としての力をつける。	・危機や危険の共有改善が行えたか。 ・年間8回の定期的な訓練、啓発、日常の安心安全な環境作りができた。	A	・日常のヒヤリハットの共有から、施設改善、環境の工夫が行えた。 ・年間8回の訓練を行い、個々、集団の対応力が高まった。	・毎年、園児も職員も引き続き、日常の気づきと様々なことを想定した訓練を行う必要がある。 ・予算をとりながら、より安全に過ごせるよう備品をそろえる。	・適切である。 ・結果が出るように対応するのはなかなか難しいと思いますが、配慮よろしくをお願いします。
	幼稚園情報の発信	保護者、地域に幼稚園情報の発信に努める。	・保護者が使いやすいわかりやすいように、紙媒体、GoogleClassroom、HP、動画配信で発信を行う。 ・地域には紙媒体での情報発信、及び有岡小学校との交流、民生指導委員さんとの交流を通し、園児の様子、保育の具体を知っていただく。	・業務改善しながら、発信に努めることができたか。 ・保護者アンケートで「小学校との交流・連携や、地域との連携が昨年度よりできたと感じる」の項目が90%を超える。	B	・発信することに時間がかかり、業務の減少にはつながりにくい実態があった。特にICTについては個々の理解スキルアップに時間をかけ、使いこなせるようになることが難しい。 ・民生児童委員の方に敬老の日のついでや正門、掲示板、プランターのペンキ塗りをしていただいた。今後も小中や地域とのつながりをもつ。	・発信する情報の整理と、発信する方法の整理を行う。 ・個々がPC、タブレットの研修をし、スキルを高める。 ・園児の実態に合わせて、小学校との連携、地域とかかわりの中でさらに育ち、縦の教育につなげる。	・保護者の目につきやすいところに写真掲示するなど情報発信につとめている。 ・発信の種類が多く、大変な業務だと思う。 ・地域への発信が不足しているように思う。
子育て支援事業	子育て支援の場として、園庭開放、預かり保育を進める。 ・保護者同士のつながりができるような機会をもつ。	・通常保育、長期休業中の園庭開放を始め、長期休業中はよりダイナミックに活用できるよう、用具や教材が使えるようにする。 ・引き続き感染症対策は行いながらも、金曜日に保育後続けて遊べる園庭開放の実施や園芸ボランティア等を通して保護者同士のつながりができる機会をもつ。	園庭開放や預かり保育利用者が100名を超える。 主体的なPTA活動を支援、保護者同士のつながりが、年度当初より増える。	B	・園庭開放、預かり保育利用者が年間100名を超えた。 ・長期休業中、2学期以降はさらに使えるものを増やした。 ・週に一度後園後、そのままできる園庭開放の機会を設けたことで、絵本の読み聞かせや戸外遊びを楽しむ親子の時間が持った。 ・積極的に園芸や誕生会の出し物、クラフトなどのボランティア活動が保護者同士で行えた。	・園庭開放、預かり保育を引き続き充実させていく。 ・園庭開放は、未就園、小学生など、地域の子どもと親が集える場になるよう、広く知らせる。 ・今年度実施したボランティアや、懇親会の場など、保護者が主体的にPTA活動を行えるよう、園として協力していく。	・保護者との協力も大切にして園の運営を行っていると思う。 ・この時間は次の入園児の獲得の場でもあり、園のアピールの場でもあると思う。大切にしてほしい。	

学校関係者評価総括  
 ・細かい教育ができていように感じる。年間総括において、PDCAが的確にまわされており、子ども達の育成において求められる育成像に確実に進んでいると感じた。  
 ・園に足を運ぶ機会が少なかったことが残念に思う。門の辺りは落ち葉の時期などそこだけきれい掃除してあると思う。落ち葉拾いや掃除等園児ができる場所ではないと思うので、もう少しカラフルさがあっても良いかも。靴箱の様でした。次年度以降もありおか幼稚園の為、小さな子ども達の為によりしくお願いします。

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・昨年度、今年度と重ねてきたありおかならでは異年齢での生活を来年度も進めながら、園児の実態に応じて園外の施設との連携をもっていく。園児数が少なくなる分、全園児を全職員できめ細やかに幼児理解、保育展開していけるように、子どもの育ちについて情報を伝え合いながら教育推進に取り組む。また、個々の個性に適した支援やかわりができるよう、職員間での共有の時間を作っていく。  
 ・今年度に引き続き、共同園体制を活用し、自分で考え行動する為の環境構成について研究を進めていく。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った